

学生提案科目 (※) 2015年度「地域の防災を考える」

地域の方々と関大生が協働し、関西大学が立地する千二地区の防災を考える授業です。



災害図上訓練 (DIG) を用いたワークショップ

※ 学生提案科目…何を学びたいか、学ぶべきかを学生自身が立案して開講する正課科目。
企画や運営は、学生・教員・職員によって構成される「科目提案学生委員会」が行う。

活動の概要

目的	地域防災の分野で考動力を具現化する授業の実施
連携メンバー および役割	吹田市危機管理室 参事 竹嶋秀人氏…市の防災に関する講義、千二地区連合自治会との仲介 千二地区連合自治会…地区内フィールドワークへの参加、地域における防災施策の紹介 常葉大学社会環境学部 小村隆史氏…災害図上訓練 (DIG) や地域防災に関する講義 関西大学社会安全学部教授 越山健治…地域防災に関する助言と講義 関西大学教育推進部教授 森朋子…教育の質の担保にかかる授業内容のファシリテーション 関西大学総務課長 中村匡志…関西大学の防災に関する講義 科目提案学生委員…科目提案にかかる各種業務 (連携メンバー間の連絡調整、各種資料作成、授業内容検討)
活動地域	大阪府吹田市千二地区
活動期間	2014年7月～(継続中)

連携の経緯

2015年度科目提案学生委員会では、共通教養科目の担当であった森とともに「地域防災」をテーマとする授業を行うことを決定した。その後、吹田市と関西大学が締結する「災害に強いまちづくりにおける連携協定」に基づき、吹田市危機管理室に協力を打診したところ、自治会単位での防災について提案を受け、千里山キャンパスが立地する千二地区における地域住民と協働で授業づくりを行うこととなった。

解決すべき課題

- (1) 吹田市全体の防災マップや、地区ごとの防犯マップは作成されているが、自治会単位の防災マップがない
- (2) 自治会単位での「地域防災」の検討



災害図上訓練 (DIG) のようす

千二地区フィールドワーク

大学の役割

近年の甚大な自然災害を目の当たりにし、地域の防災意識は高まりつつある。大学も災害時には「地域の一員」或いは「地域の中枢」として、求められる役割は徐々に拡大している。一方、大学教育としては、アクティブラーニング (能動的学び) による社会を知る教育が求められている。

そうした社会情勢を背景に、「考動力を高めたい=考えて行動する授業を作りたい」と考えた科目提案学生委員は、防災をテーマとした授業を企画し、学生の立場で何が出来るかを検討。関西大学千里山キャンパスが立地する千二地区の防災を行政や地域住民と一体となって考えていくこととなった。

今回の主な講義内容は、以下のとおりである。

- ・常葉大学社会環境学部 小村氏…地域防災の専門分野および災害図上訓練 DIG (Disaster Imagination Game) のノウハウについて
 - ・吹田市危機管理室 竹嶋氏…吹田市の防災の取り組みについて (行政の立場から)
 - ・関西大学総務課 中村…関大の防災の取り組みについて (大学の立場から)
- これらの講義をうけた後、越山の指導のもとDIGの活動を行い、地域の方々と協働して千二地区の防災マップを作成。さらに地域の特徴を発見・再認識し、共有する方法も学んだ。このように、机上の学習だけではなく、フィールドワークを通じて、大学近辺の地域防災の関心と理解を深めた。なお、これらの活動が自己満足に終わらないよう、地域の方々からのご意見の傾聴や、授業に対する評価の確認などを行った。

今後も学生が積極的に活動に参加し、吹田市および大学近隣地区の方々との信頼関係を築き、地域防災の現状から改善案を提案できるような授業を目指していく。

成果

- (1) 自治体 (吹田市)、自治会 (千二地区連合自治会) および関西大学が連携した防災活動の実施
- (2) 地域の方々と学生との交流の機会の創出

今後の展望

- (1) 日ごろ防災について意識していない層 (地域住民 および学生) への啓発

研究者および学生の紹介



科目提案学生委員会
(かもくていあながくせいいいんかい)

学生自ら学びたいことを考え、学生の創意による講義「学生提案科目」を開講することを目的に結成される学生組織。委員となる学生は毎年公募によって集められ、教員および事務職員も委員として学生の活動をサポートする。カリキュラム検討や資料の準備、学内外の連携先との調整など、授業に必要な作業全般を学生が主体的に執り行う。



社会安全学部 教授
越山 健治
(こしやま けんじ)



教育推進部 教授
森 朋子
(もり ともこ)

現場の声

・授業の参加者

自分の住む地域を知る必要性を感じました。防災について日ごろから気にかけていきたい。

行政、地域、学生が一体となったの取り組みは今後も継続してほしい。